教育界が注目する伝説の教師、七十歳。大ぼら先生とは？

リーダーズノート出版　ジャンル：教育 参考書
2012/3/17 16:33

この本の著者、瀬口俊光氏を一言でいうとすれば、「人のモチベーションを上げさせる天才」ということになる。言うは易し、だがそれを実践するのは難しい。



●書籍名／大ぼら先生の感動ノート●著者／瀬口　俊光●価格／1300円（税込）●発売／2011年12月23日●出版元／リーダーズノート出版●ISBN／978-4-903722-41-2

二〇〇一年に、福岡で、はじめて瀬口先生にお会いした。すごい先生がいると聞いてはいたが、その意味合いは今ひとつはっきりしなかった。わずか二時間の会食の後、私と瀬口先生は、男同士でかたく手を握り合って「頑張りましょう、いい本にしましょう」と盛り上がっていた。

数時間後、ホテルに戻った私は、興奮が覚めて「なるほど…」と思った。

著者は体育の教師だった。陸上競技の指導畑を歩んできた。高校生とはいえ競技の世界は熾烈だ。過酷な訓練を乗り越えて実績が出る。逆説すれば、頑張りましたと言っても、結果がともなわなければ評価が出ない。そこで著者は考えた。ビジネスの世界での「成功法則」を陸上指導や進学指導に応用しよう。

彼は現役教師のとき、当時八十万円もしたという『ナポレオン・ヒルの成功哲学』の書籍とテープ五十巻を通販で購入し毎日聞くということから始めた。行き着いたところが、ほめて夢を持たせ、モチベーションを極限までアップさせるという指導方法だった。

本書で、私が興味深かったのは、「互いをほめあうミーティング」というものだ。
六人参加のミーティングでは、一人を、残りの五人が、ほめあげる。ただし、心に響くほめ方をしなければならない決まりになっている。そして、ほめられ役になったその一人が、五人のうち、自分を一番上手にほめてくれた人を選ぶ。その人が、その日の優勝者となる。いわばほめ方上手の優勝者だ。みんなの拍手を浴び、次のミーティングで、ほめられ役の一人をつとめるという。なんとも良くできたシステムではないか。

ほめられることの少ない日常生活で、ほめられた者は否応なしにモチベーションがアップしていく。ここで大切なことは「ほめる力をつける」ということらしい。著者に言わせれば、他人をほめるということは特殊能力である。その力を養うことによって、自分にもコミュニケーション能力が身につくという理屈である 。人をノセるのがうまい。壮大な夢を描いて見せ、大ぼらを吹いて、それを実現してしまう。そんな著者は、やがて「大ぼら先生」「ノセ口先生」あるいは、「ミラクル瀬口」などと呼ばれるようになった。

かくして「大ぼら先生の感動ノート」は、大ぼらがゆえの、瀬口先生の、人生そのものの傑作である。九州では、すでに退職して十年が経つというのに、二百五十人もの教え子やら同僚が集まって彼を祝った。おそらくみな著者にノセられた口である。それが西日本新聞に取り上げられ、テレビやラジオにも出演し、朝日新聞（九州版）に大きく紹介され、さらに朝日新聞の「天声人語」にも取り上げられた。またひき続いてテレビやラジオに出演するという。

書店では、本を積み上げ、それが何回転もする状況になり、われわれの事務所には、各地から注文が入りスタッフが対応に追われている。これらもまた、成功法則にのっとった大ぼら的効果に違いない。
私は、この本の宣伝用POPに、こう書いた。

「福岡発、日本の教育界が注目する伝説の教師、七十歳」。
大ぼら先生の愛弟子になった、私の作品である。

文責／木村浩一郎